

浪速路 (なにわじ) は なには無くても 外語会

— 「関西支部」 同窓会 1 幕 10 景 240 分 —

第 16 回を迎えた「外語会」関西支部の同窓会が、6 月 5 日、大阪の新阪急ホテルに 57 名の参集を得て盛大に行われました。11 時の開式から 15 時のお開きまで、時間を追ってご報告いたしましょう。

【第 1 景】「天地のひらく あげぼのに ...」のテープ演奏で幕が開きました。1960 年に制定されたこの大学歌は、格調高い歌詞と荘厳な調べで、何度聴いても心が洗われる思いです。でも「聴く」には最高だが、仲間と一緒に「歌う」には格調が高過ぎる。部活の打ち上げ会やコンパなどで青春の高鳴りを発散させる時にふさわしい、応援歌調の「第 2 の大学歌」も欲しいですね。

【第 2 景】総会のトップスピーカーは、「外語会」本部からお越しの長谷川康司・理事長 (S1964/昭 39)。支部の数を増やすこと、また、財務の立て直しのためにも、特に平成卒や女性をもっと多く会員になって欲しい旨、強調されました。

【第 3 景】続いて、立石博高・学長 (S1976/昭 51) の挨拶です。本学の英文名に含まれている **Foreign Studies** を冠する大学が、韓国、中国、ベトナム、ウズベキスタンなど東南アジアに広がっていること、在学中に海外留学 2 回を目指す「留学 200%」が実現に近づいていること、近いうちに 3 番目の学部「国際日本学部」の設置要望を文科省に出す予定であること...などを披露されました。日本語学部の新設が実現し、外語キャンパスが「人種のるつぼ」と化す(ちょっとオーバーかな?) 光景を想像するだけで、実に楽しいです。

【第 4 景】総会最後の挨拶は、来賓の「咲耶会」会長の少徳敬雄さん。「咲耶会」とは、旧・大阪外語大の同窓会で、同学は 9 年前に阪大に統合されましたが、同窓会は今後も独立性を保ちつつ活発に活動しており、東京外語同窓会との姉妹関係は緊密に続いております。因みに「咲耶会」の名前の由来は、万葉集の「浪速津に 咲くやこの花 冬ごもり 今は春べと 咲くやこの花」から来ているそうです。

【第5景】さあ、いよいよ本会の目玉、講演会です。講師は、昨年に三村正治さん(C1966/昭41)から関西支部長のバトンを引き継いだ田邊隆一さん(D1970/昭45)。氏はポーランド大使など、欧州を中心に世界各地を股に掛けた元外交官。「田邊の行くところ、必ず大事件あり」と言われた男で、今回の演題「地殻変動の世界と日本の対応」を語るにうってつけ。ベルリンの壁の崩壊を身を以て体験し、リアド駐在時にはイラクから飛来した45発のスカッドミサイルに怯え、また、石原慎太郎・元都知事に同行したワシントンでは「9・11テロ」に遭遇した話など、各地での生々しい体験に裏付けられた氏の世界現状分析と、将来を見通す卓見は、数々のスライド映像と相まって、参会者の耳目を集め、あっという間に1時間が過ぎました。

【第6景】斎藤容子さん(U1973/昭48)の乾杯の音頭により、懇親会に入りました。テーブル配置は、来賓を同じテーブルに固めていた従来のやり方を改め、完全な語部別にしました。この時点で「ドタキャン」が2名、「飛び入り」が1名。差し引き最終の参加者数が57名と判明し、この中には、間もなく「外語会」本部の支部委員長に就任される鈴木惟高さん(F1970/昭45)、同じく東京から駆けつけた香山徳二さん(Po1961/昭36)、大島勇次郎さん(Po1962/昭37)、秋葉武志さん(C1964/昭39)、さらに、岡山から来阪の西井麻美さん(Po昭59)も含まれています。遠路はるばる、本当に有り難うございました。

【第7景】食事と、お酒と、おしゃべりで、会もそろそろ佳境に入った頃合いを見計らって、その軽妙さが売りの当会・司会者コンビ、肥塚美和子さん(H1967/昭42)と安納俊紘さん(A1972/昭47)が、何人かの参会者に「ぶっつけ本番」でショートスピーチをお願いしました。いきなり指名された中の1組が、長井豊彦・長井かをりさん(共にS1977/昭52)の「同級生カップル」。在学時に「ブト一部で知り合った」と、おのろけ話を披露する旦那さんに「えっ？武闘部？」とのヤジが飛び、「いえ、舞踏部です」とすかさず、奥さんが切り返すなど、ほのぼのとした掛け合い漫才(?)に会場がなごやむ1幕がありました。

【第8景】仕事の関係でやむなく遅れて出席したが、懇親会には間に合った最年少の中村仁美さん(IC-T2014/平成26)のスピーチも、ボート部出身だけあって、はつらつとして、なかなか好感の持てるものでした。中村さんと同じ2014/平成26年卒のアラビア語の同級生ふたり(田邊瑞穂さん、橋本琴音さん)も憶せず、堂々とした挨拶でした。

この3人の若い参会者こそ、長谷川康司・理事長が「外語会」にもっと増えて欲しいと願っている「平成卒で、元気な女子」の理想像ではないでしょうか。

【第9景】その後、数人の楽しいスピーチが続き、気が付けば、もう3時前。中締めは幹事の一人、堀江隆男さん（S1971/昭46）の見事な「一本締め」の手拍子に皆が合わせて、お開きとなりました。

【第10景（舞台裏）】

最後に、幹事の1人として一言。今回の参会者総数は、来賓と幹事を除けば、わずか40名。案内状は426人に発送したので、出席率は9%という体たらくぶり。今回から会場を新阪急ホテルに変えたため、会費を男性1万円、女性8千円に上げたことが響いたのかも知れません。毎年々々、収支のやりくりが大変です。せめて70人ラインに乗せたい — 舞台裏を預かる者のささやかな願いです。

もうひとつの問題は、出欠通知をいただく返信ハガキの返りが42%しかない点です。添付した52円切手が無駄になった痛さもさることながら、住所変更など、会員からの情報源が細るのは全く頭の痛い問題です。

まあ、「たかが同窓会」「されど同窓会」 — また来年6月にお会いしましょう。

投稿者：関西支部 幹事 橋野博 ドイツ語 1961年卒業